

# グラフで見る東海経済 (2019年4月)

2019年4月26日

調査部 主任研究員 塚田裕昭

## 今月の景気判断 ～東海経済は横ばい圏で推移している。

項目	現状	前月
1. 景気全般	横ばい圏で推移している	—
2. 生産	横ばい圏で推移している	—
3. 輸出	横ばい圏で推移している	—
4. 輸入	横ばい圏で推移している	—
5. 設備投資	増加している	—
6. 雇用	改善している	—
7. 賃金	持ち直しの動きがみられる	—
8. 個人消費	持ち直しの動きがみられる	—
9. 住宅投資	横ばい圏で推移している	—
10. 公共投資	増加している	—

### 【今月のポイント】

- 2月の東海の生産は、電子部品・デバイスが大幅減となったが、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械が増加し、全体でも2ヶ月ぶりに増加した。
- 東海の実質輸出も、2月は高めの伸びとなった。
- 2月の動きは、中国の春節の影響等により振れが大きくなっている可能性がある。東海経済は均してみると横ばい圏で推移しているとみられる。

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目  
前月のコメントが現状と同じ場合は—と表記

# 1. 景気全般 ～横ばい圏で推移している(先行き:緩やかに持ち直し)

## ■ MURC東海景気動向指数

- 1月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、前月差-4.1の99.8と大幅に低下した。
- 採用系列すべてがマイナス寄与となり、なかでも大型小売店販売額と鉱工業生産指数の悪化が全体を引き下げた。



(出所)内閣府「景気動向指数」、MURC

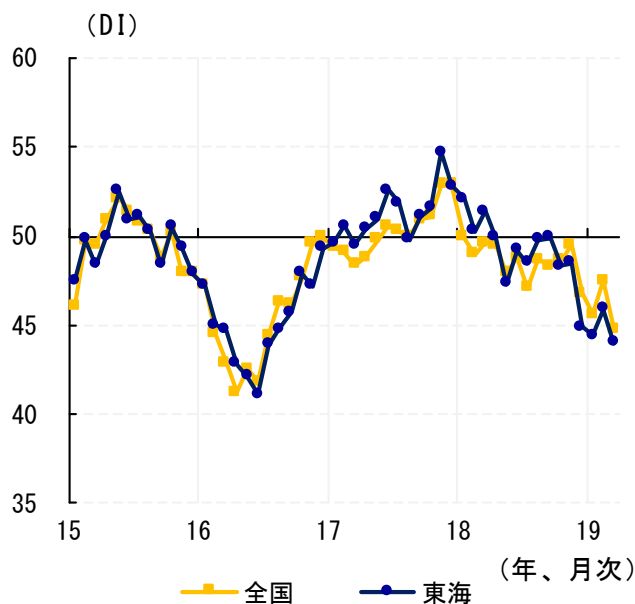
(注) 東海動向指数の採用系列は、鉱工業生産、同(金属工作機械)、有効求人倍率、人件費比率、大型小売店販売額、実質輸入、所定外労働時間の7系列。

# 1. 景気全般

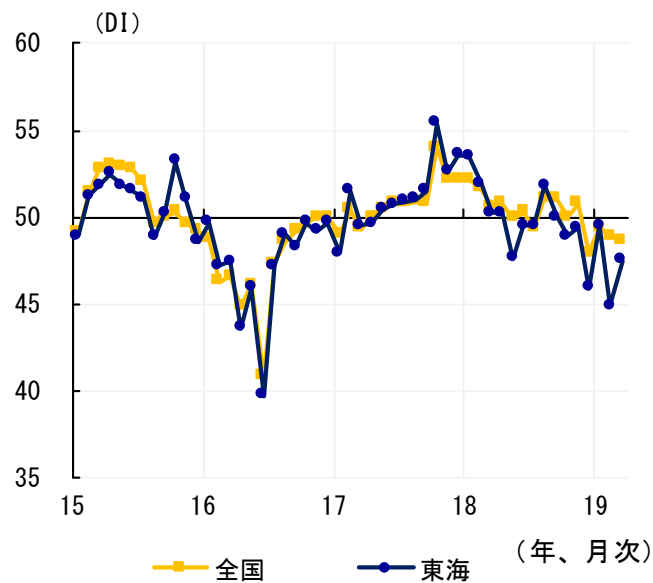
## ■ 景気ウォッチャー調査

- 東海の景気マインドは弱い動きが見られる。3月の東海4県の景気ウォッチャー調査では、足元の景況感を示す**現状判断DI**(季節調整値)は前月差-1.9ポイントの44.0と2ヶ月ぶりに低下した。客単価の低下、原材料費の上昇による収益の悪化がDI低下につながった。
- **先行き判断DI**(同)は同+2.6ポイントの47.5と2ヶ月ぶりに上昇した。海外情勢の不確実性への懸念がある中、改元、大型連休、消費税引き上げ前の駆け込みへの期待がみられる。

現状判断DI



先行き判断DI



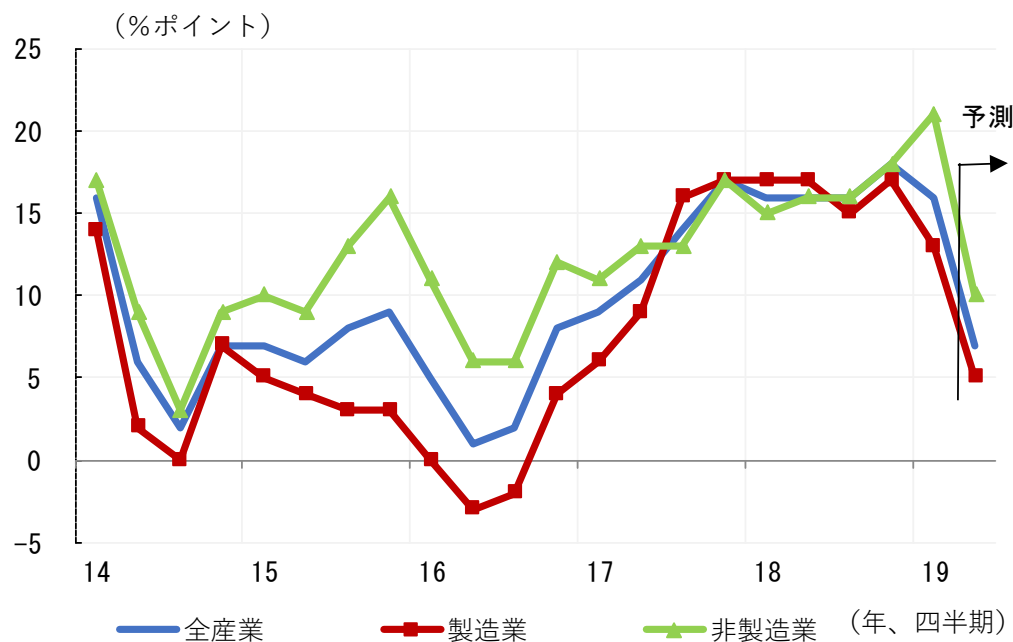
(注) DIは季節調整値  
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

# 1. 景気全般

## ■ 日銀短観

- **日銀短観3月調査**によると、東海3県の**業況判断DI**(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模](+16%pt)で前期から2%pt低下した。非製造業[全規模]は+21%ptと前期から3%pt上昇したが、製造業[全規模]が+13%と、4%pt低下した(はん用機械が大きく低下)。
- 先行きは、製造業-8%pt、非製造業-11%ptと、いずれも悪化が見込まれている。

業況判断DI(東海・全規模)



(出所) 日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」(短観)

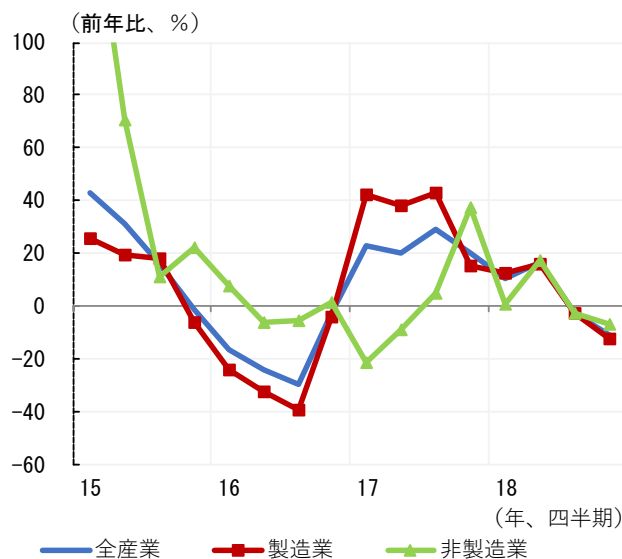
# 1. 景気全般

法人企業統計調査はコメント、グラフ共に前回から変更なし

## ■ 法人企業統計調査、日銀短観

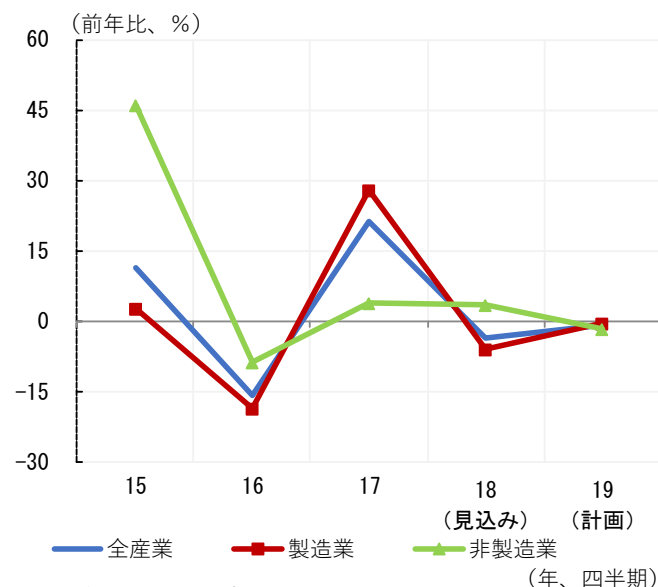
- **法人企業統計調査**によると、2018年10～12月期の東海4県の大企業の経常利益(全産業)は前年比-10.8%と2四半期連続で減少した。内訳をみると、製造業(同-12.3%)が二桁減となったほか、非製造業(同-7.0%)も減少した。
- **日銀短観3月調査**によると、東海企業の18年度の経常利益(見込み)は全産業で前年比-3.7%と、前回12月(同-2.0%)から下方修正された。非製造業は前回の同+0.6%から同+3.5%へ上方修正されたが、製造業が同-2.8%から同-6.1%と下方修正された。19年度については、製造業(同-0.6%)、非製造業(同-1.5%)ともに減益が予想されている。

東海の大企業の経常利益(法人企業統計)



(注) 資本金10億円以上の法人(除く金融・保険)  
(出所) 東海財務局「法人企業統計調査」

東海の企業の経常利益(日銀短観)

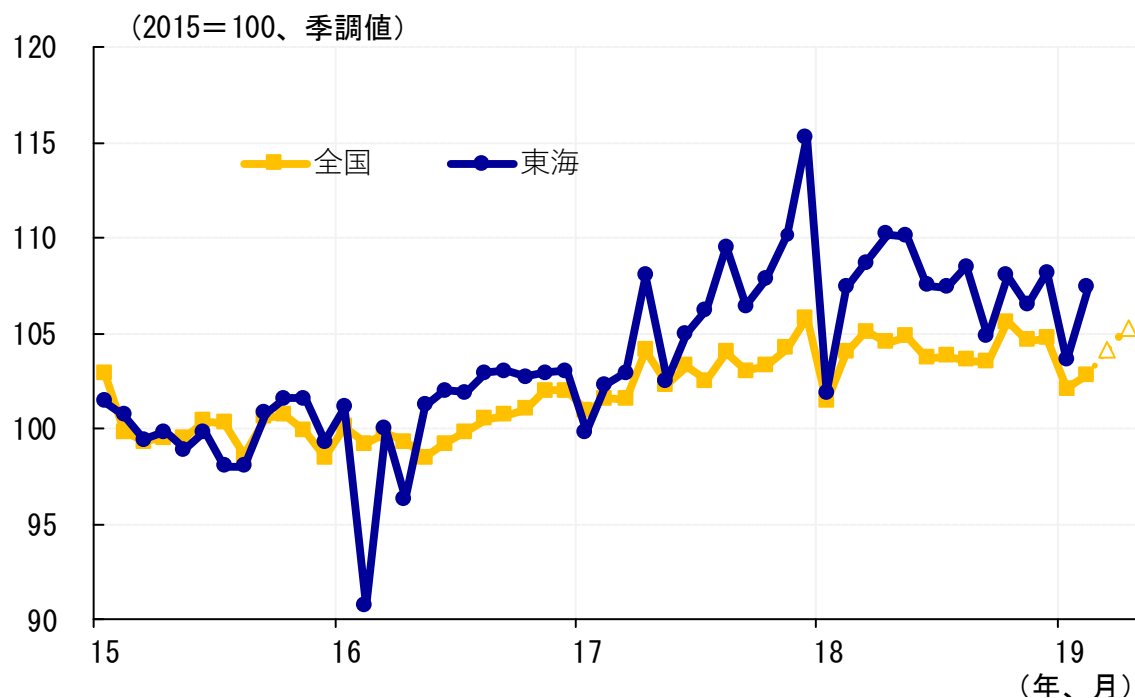


(注) 東海3県=愛知、岐阜、三重。  
(出所) 日銀、同名古屋支店「企業短期経済観測調査」

## 2. 生産～横ばい圏で推移している（先行き:緩やかに持ち直し）

### ■ 鉱工業生産指数

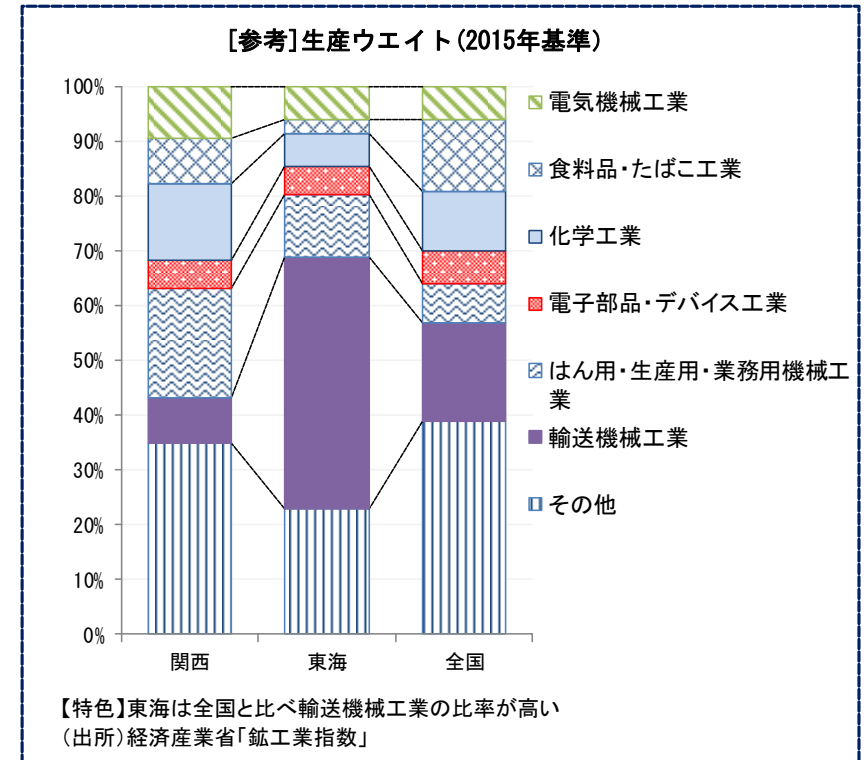
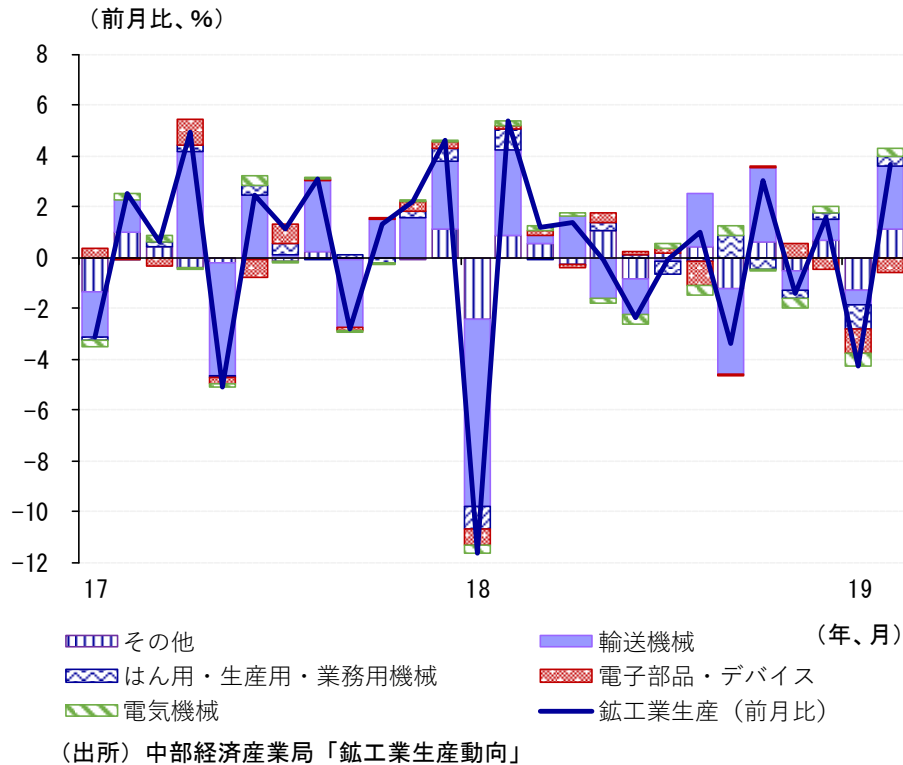
- 東海の実績は、均して見ると、横ばい圏で推移している。
- 2月の東海3県の鉱工業生産は、前月比+3.7%と2ヶ月ぶりに増加した。電子部品・デバイスの減少が続いたが、輸送機械、はん用・生産用・業務用機械などが増加した。



(注) 1. 生産（全国）の「△」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。

(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」、  
経済産業省「鉱工業指数」

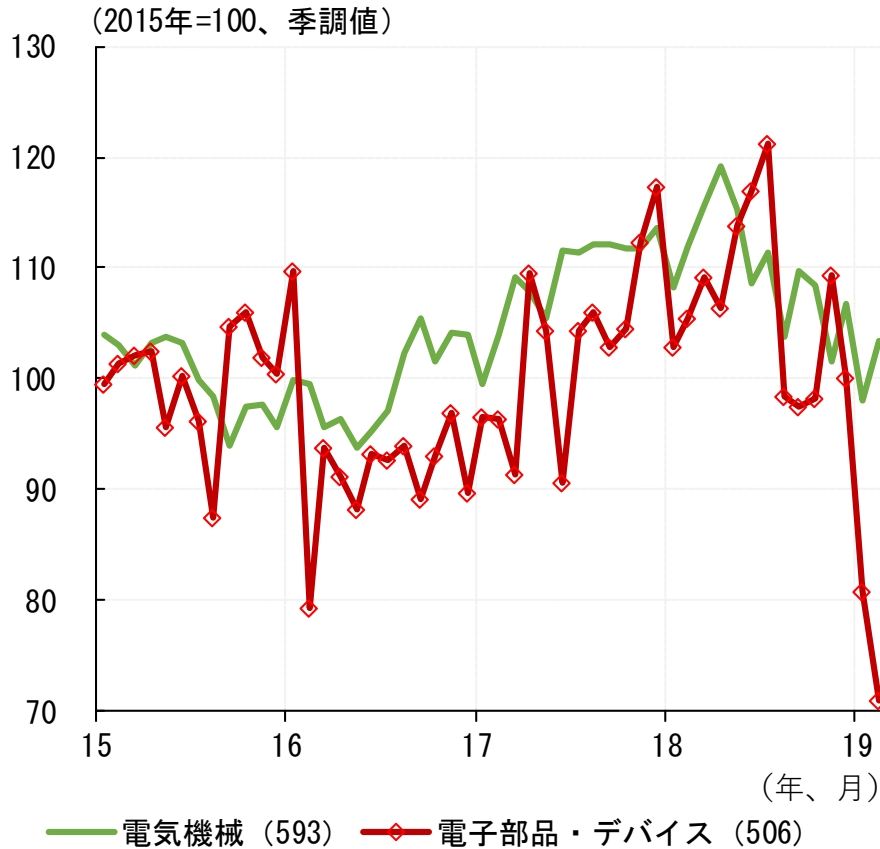
## 2. 生産



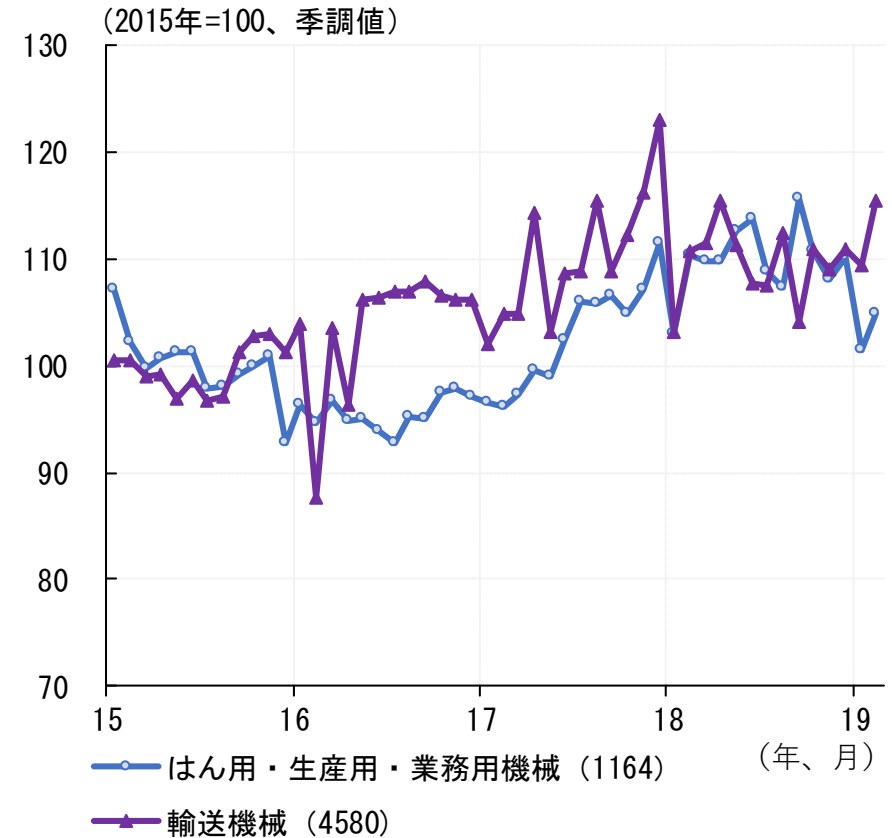


## 2. 生産

### 業種別生産



(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業=10,000)  
(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」



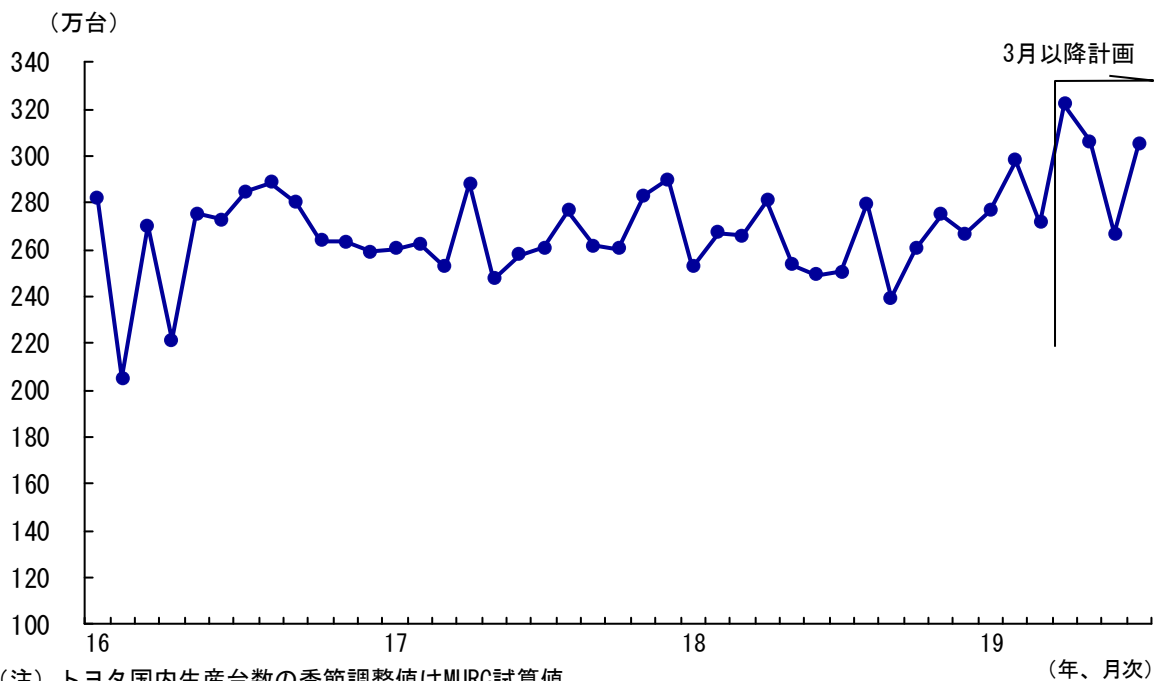
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業=10,000)  
(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」

## 2. 生産

### ■トヨタ自動車国内生産計画

- 中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、18年3～19年7月の国内日当たり生産台数は1万4,000台半ば程度で推移する見込みである。
- 季節調整済みの数字(MURC試算)で見ると、先行きは高水準横ばいの推移が見込まれる。

生産台数(季節調整値)



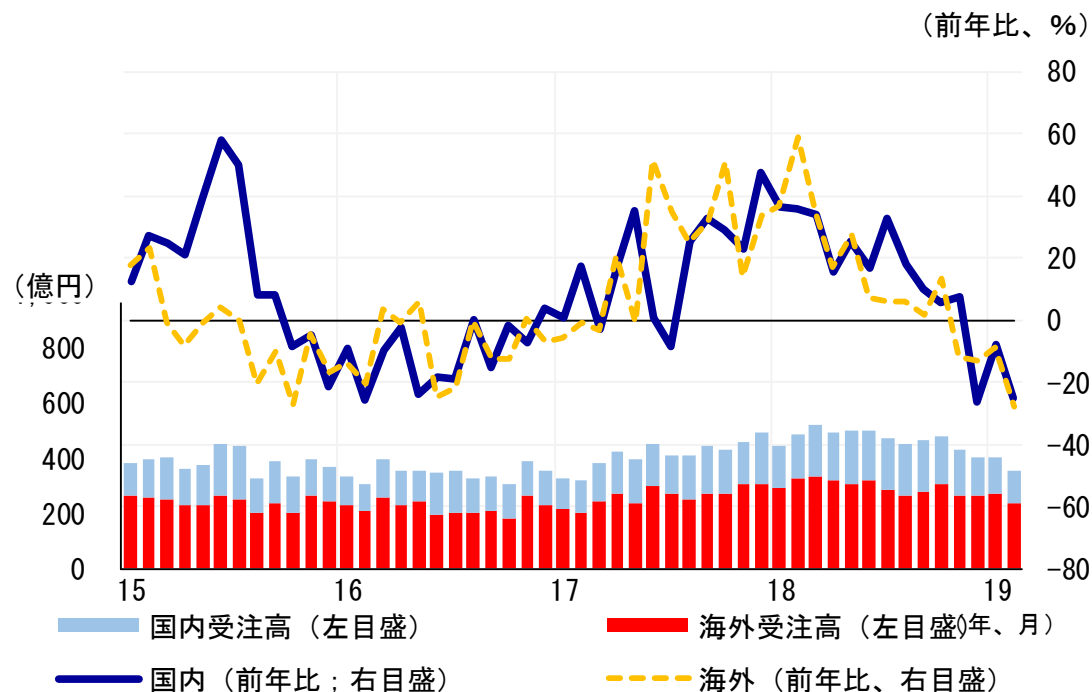
(注) トヨタ国内生産台数の季節調整値はMURC試算値。

(出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞

## 2. 生産

### ■ 金属工作機械受注(東海)

- 2月の**金属工作機械受注**は前年比-27.0%と4ヶ月連続で減少した。
- 海外受注は同-28.1%と4か月連続で減少。米国向け(同-19.9%)、中国(同-49.7%)向けなど主要国向けの減少幅が拡大した。
- 国内受注は同-25.0%と3ヶ月連続で減少した。一般機械向け(同-16.5%)、自動車向け(同-22.2%)など大半の業種で減少となった。

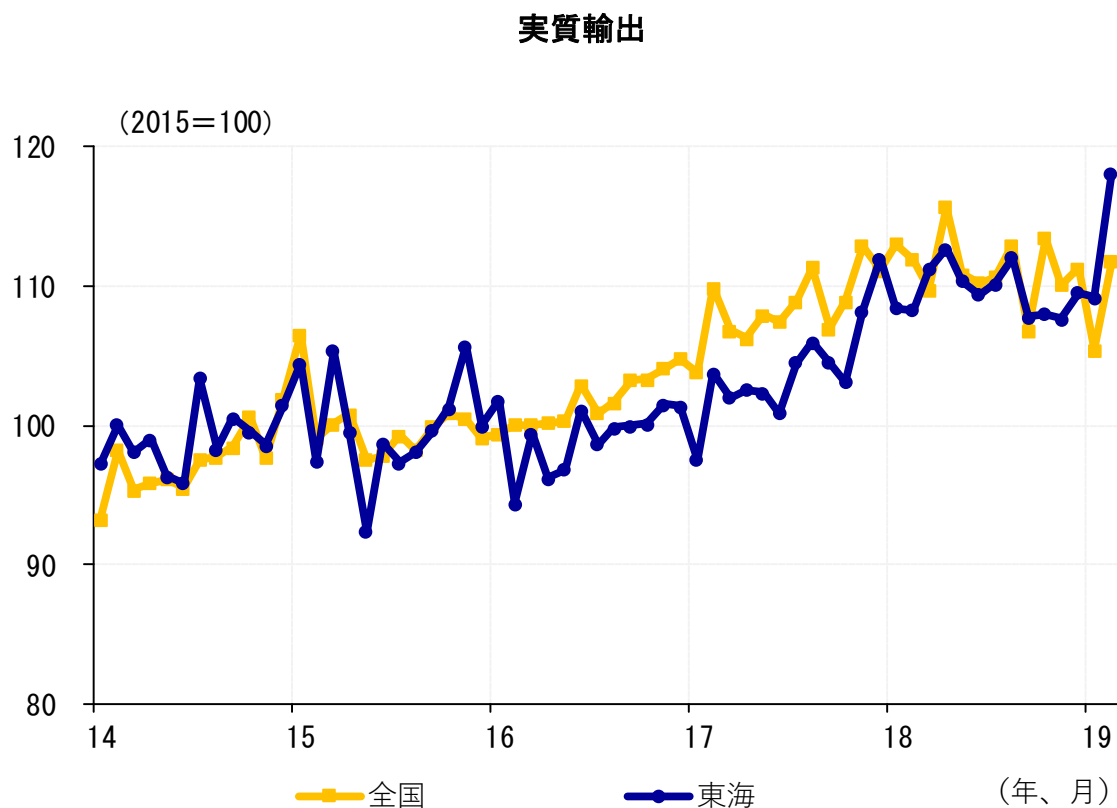


(注) 東海は、中部経済産業局管内の主要8社  
(出所) 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

### 3. 輸出～横ばい圏で推移している（先行き:緩やかに持ち直し）

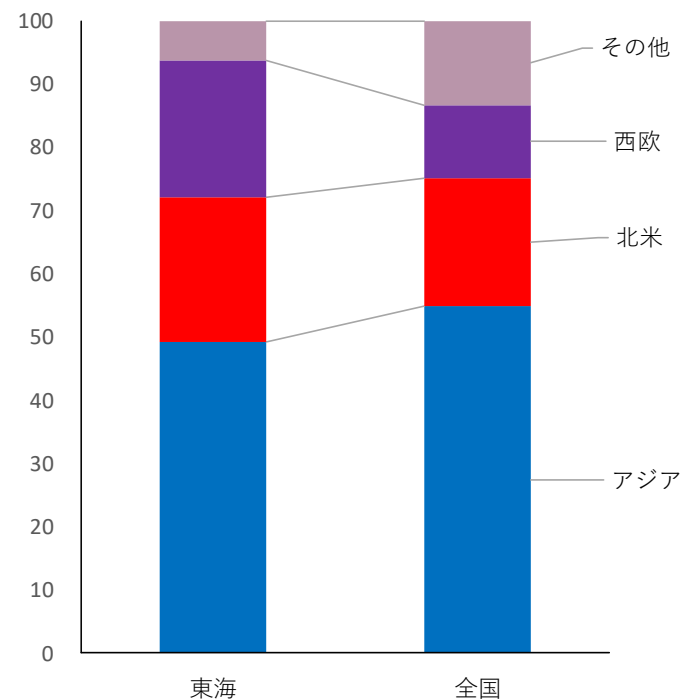
#### ■ 実質輸出

- 2月の実質輸出(季調済)は前月比+8.2%と高めの伸びとなった。東海の輸出は均して見ると横ばい圏で推移している。



(出所) 日本銀行名古屋支店「実質輸出入」

輸出額地域別シェア(2018年)



【特色】東海は全国と比べ欧米のシェアが大きい。

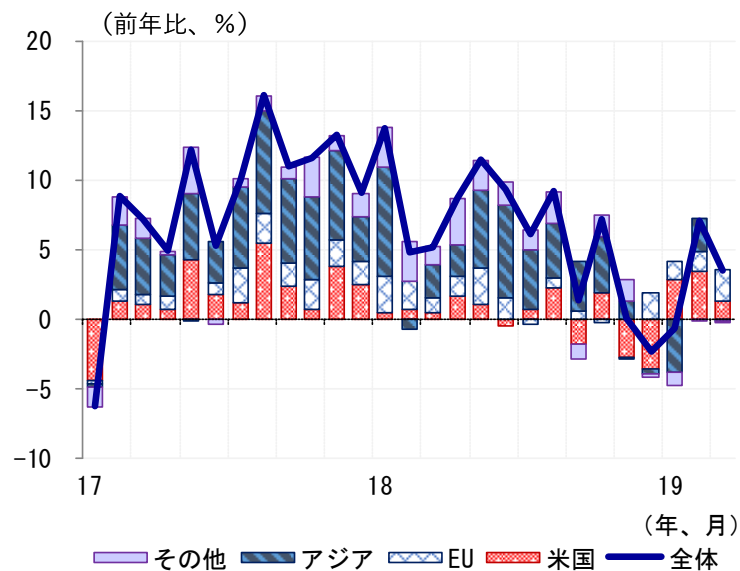
(出所) 財務省「貿易統計」

### 3. 輸出

#### ■ 貿易統計: 名目輸出

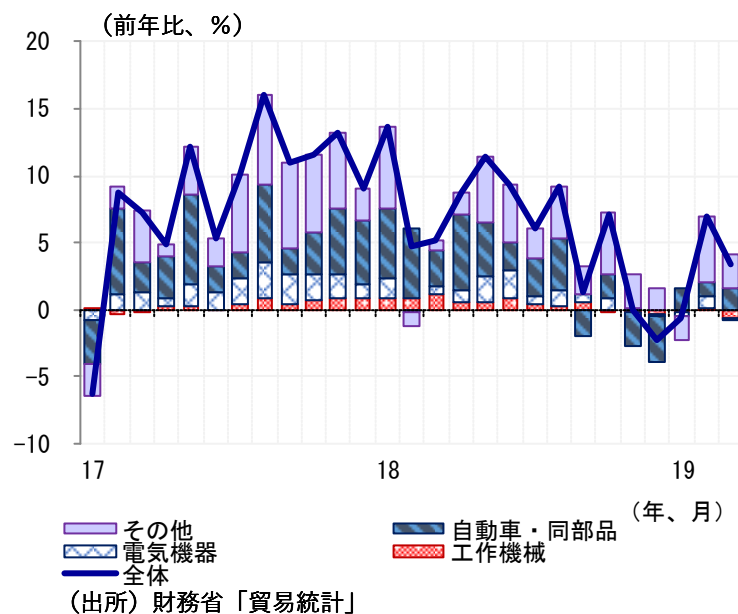
- 3月の名古屋税関管内の**名目輸出額**は前年比+3.4%と2ヶ月連続で増加した。地域別にみると、アジア向けが同-0.3%と減少したが、欧州向け(同+16.3%)米国向け(同+4.6%)が増加した。
- 品目別では、工作機械、電気機器が減少となる一方、自動車、その他が増加した。

名目輸出(地域別寄与度)



(出所) 財務省「貿易統計」

名目輸出(品目別寄与度)

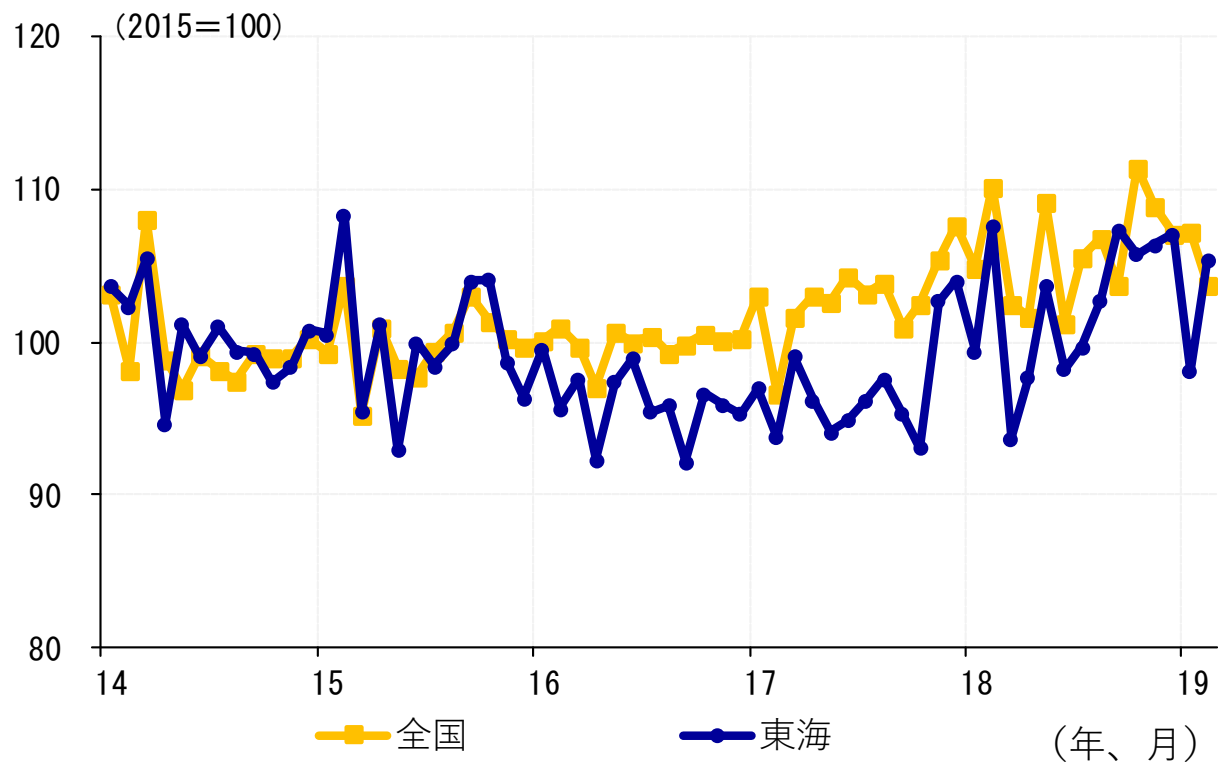


(出所) 財務省「貿易統計」

## 4. 輸入～横ばい圏で推移している（先行き:横ばい）

### ■実質輸入

- 2月の実質輸入(季調済)は、前月比+7.5%と2ヶ月ぶりに増加した。東海地方の輸入は均して見ると横ばい圏で推移している。



(出所) 日本銀行名古屋支店「実質輸出入」

## 5. 設備投資 ～増加している(先行き:増加)

コメント、グラフ共に前回から変更なし

### ■ 法人企業統計

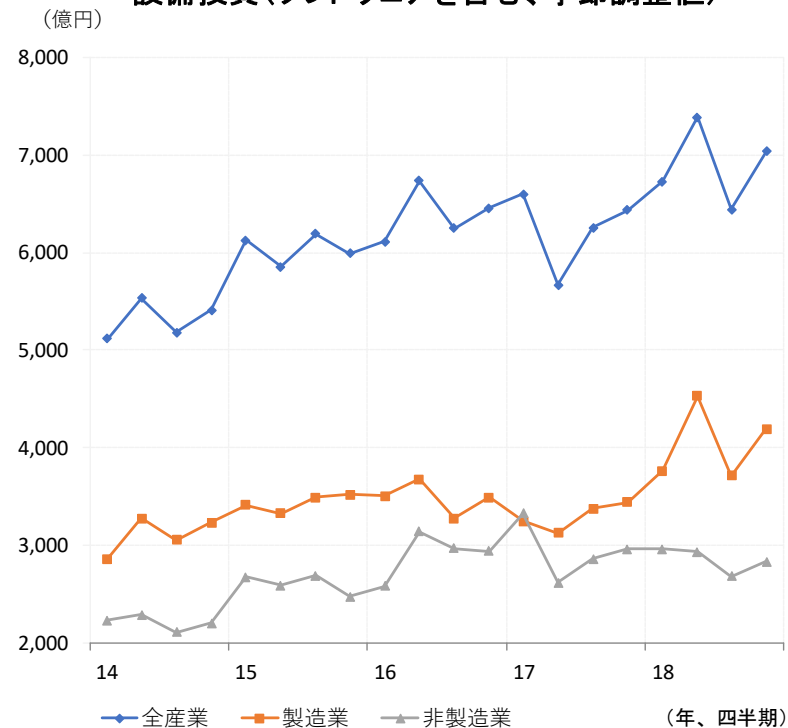
- 2018年10-12月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+9.5%と4四半期連続で増加した。内訳をみると、非製造業は同-4.6%と減少が続いたが、製造業は同+22.3%と伸び幅が拡大し全体を押し上げた。
- 季節調整値(MURC試算)の動きを見ると、増加ペースに一服感がみられる。

設備投資の前年比伸び率 (全産業、%)

	東海	全国
17年10-12月	-0.6	4.3
18年1-3月	2.3	3.4
4-6月	31.0	12.8
7-9月	2.3	4.5
<b>10-12月</b>	<b>9.5</b>	<b>5.7</b>

(出所) 財務省「法人企業統計調査」

設備投資(ソフトウェアを含む、季節調整値)



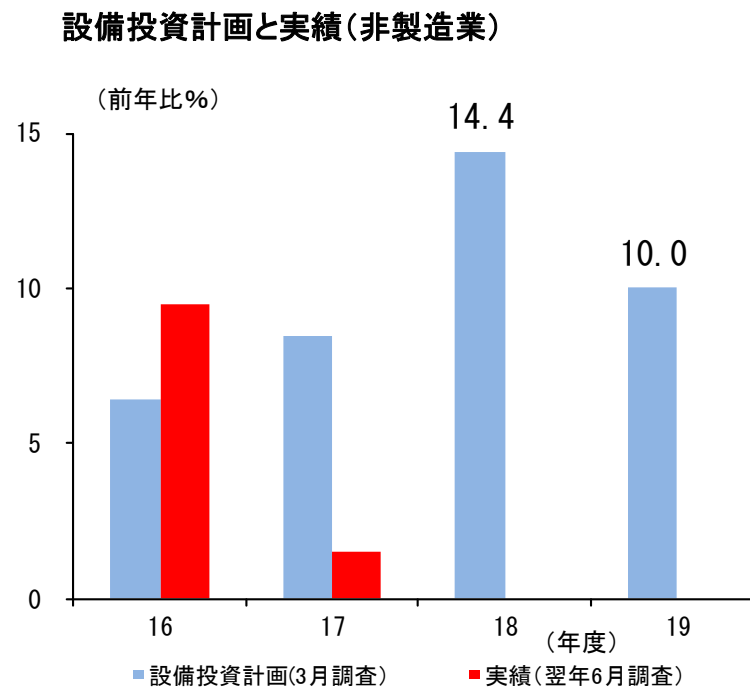
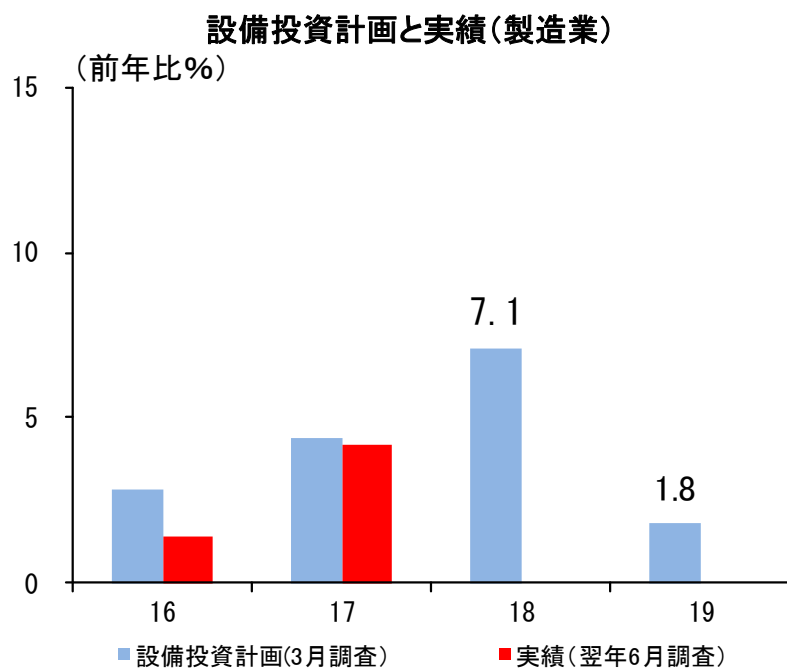
(注) 季調はMURC

(出所) 財務省「法人企業統計調査」

## 5. 設備投資

### ■ 日銀短観

- **日銀短観3月調査**によると、東海3県の18年度の**設備投資**は全産業で前年比+9.1%（12月調査：同+9.8%）と、17年度実績（同+3.4%）を上回る見込みである。内訳をみると、非製造業が同+14.4%（17年度実績：同+1.5%）、製造業は同+7.1%（17年度実績：同+4.2%）と見込まれている。19年度計画は、全産業同+4.2%、製造業同+1.8%、非製造業同+10.0%となっている。



（注）設備投資はソフトウェアと研究開発費を含む。土地投資額を除く。2016年度は実績値のみ。

（出所）日本銀行名古屋支店「短観」



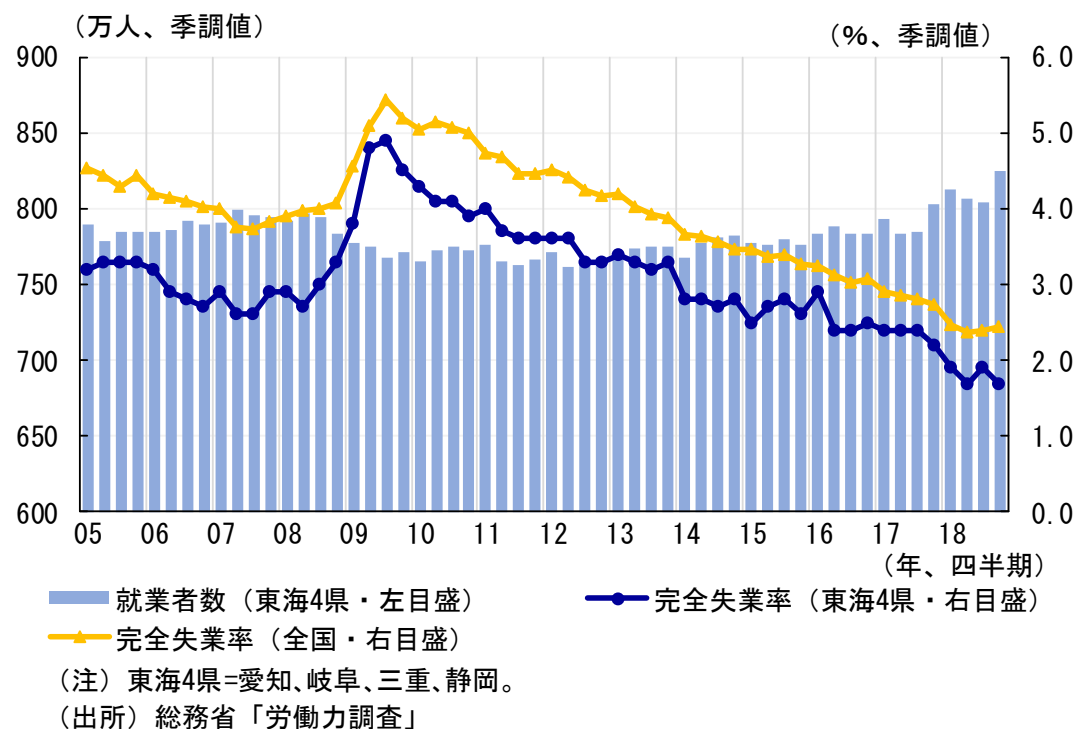
## 6. 雇用 ～改善している（先行き:改善）

コメント、グラフ共に前回から変更なし

### ■ 完全失業率

- 労働需給はタイトな状況が続いている。2018年10～12月期の東海4県の**完全失業率**は前期差－0.2%ポイントの1.7%。これは、全国(2.4%)を下回り、地域別でみて最低水準だった。
- 同時期の**完全失業者**は前期差－2万人と減少し、**就業者数**は同＋21万人と増加した。

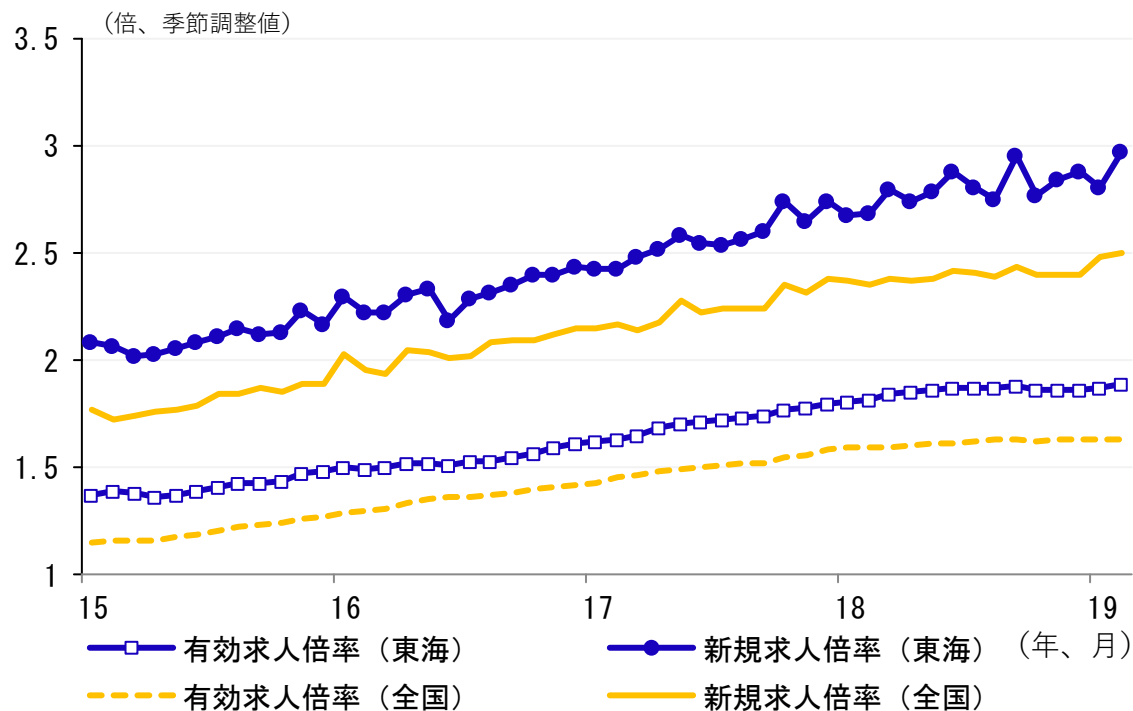
失業率と就業者数(季節調整値)



## 6. 雇用

### ■ 求人倍率

- 2月の東海4県の有効求人倍率（季節調整値）は1.89倍と、2カ月連続で小幅ながら上昇した。有効求人数が小幅減少したが、それ以上に有効求職者数が減少した。
- 有効求人倍率に先行する新規求人倍率は、2.97倍（前月：2.81倍）と上昇した。新規求人数が増加した一方、新規求職申込件数が減少した。



（注）東海は岐阜、静岡、愛知、三重の4県

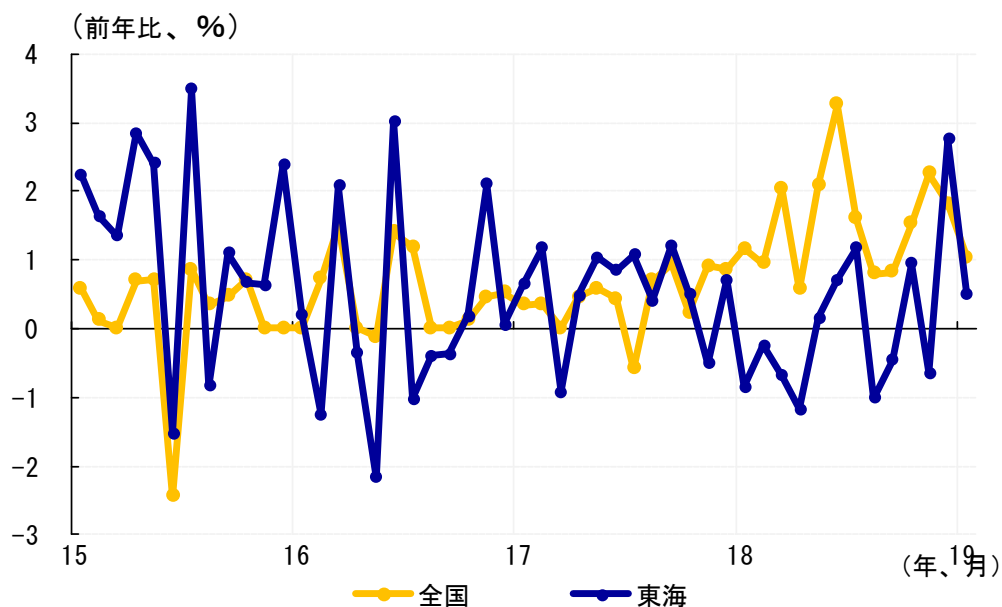
（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

## 7. 賃金 ～持ち直しの動きがみられる（先行き:持ち直し）

### ■ 名目賃金指数

- 東海3県の1月の名目賃金指数(現金給与総額)は前年比+0.5%と、2ヶ月連続で増加した。県別にみると、常用労働者数の約7割を占める愛知は前年比横ばいにとどまったが、岐阜、三重が増加した。

名目賃金指数(現金給与総額)



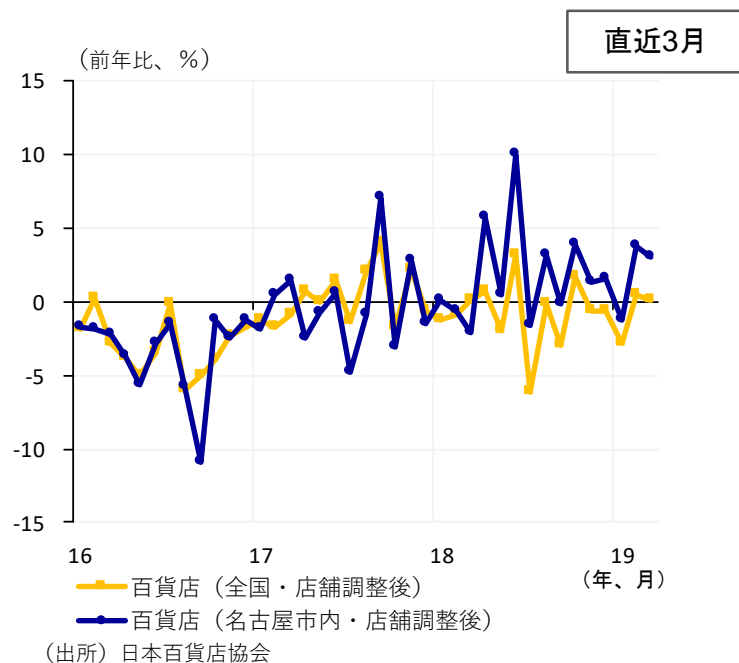
(注) 東海3県（愛知、岐阜、三重）の指数はMURC試算。常用労働者数で按分し合成。

## 8. 個人消費 ～持ち直しの動きがみられる（先行き:緩やかに持ち直し）

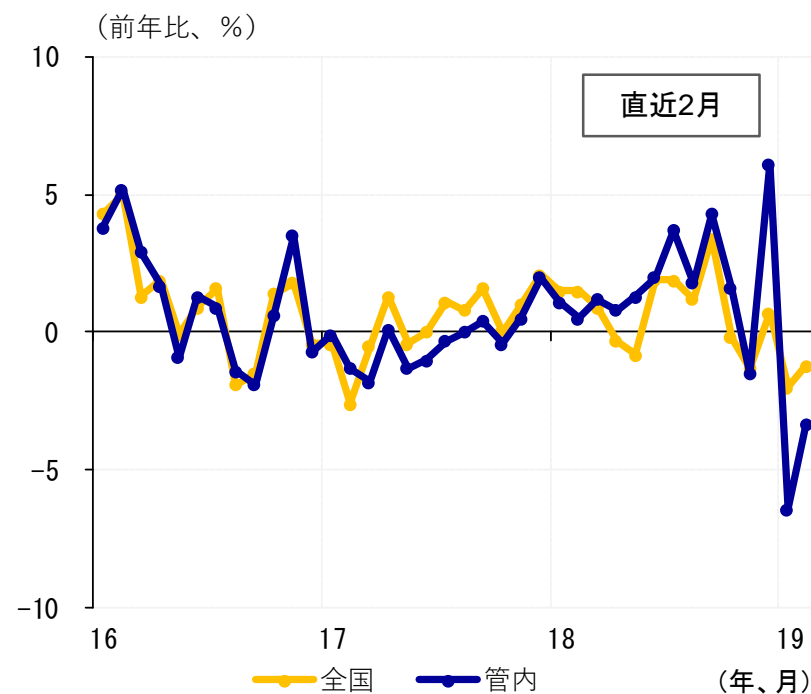
### ■小売店販売額

- 3月の名古屋市内の百貨店販売額(店舗調整後)は前年比+3.0%と2ヶ月連続で増加した。高額品やインバウンド消費が好調であった。
- 2月の中部5県のスーパー売上高(全店)は同-3.3%と2ヶ月連続で減少した。総額の8割を占める飲食料品(同-3.7%)が減少し、全体を引き下げた。

百貨店販売額(店舗調整後)



スーパー販売額(全店)

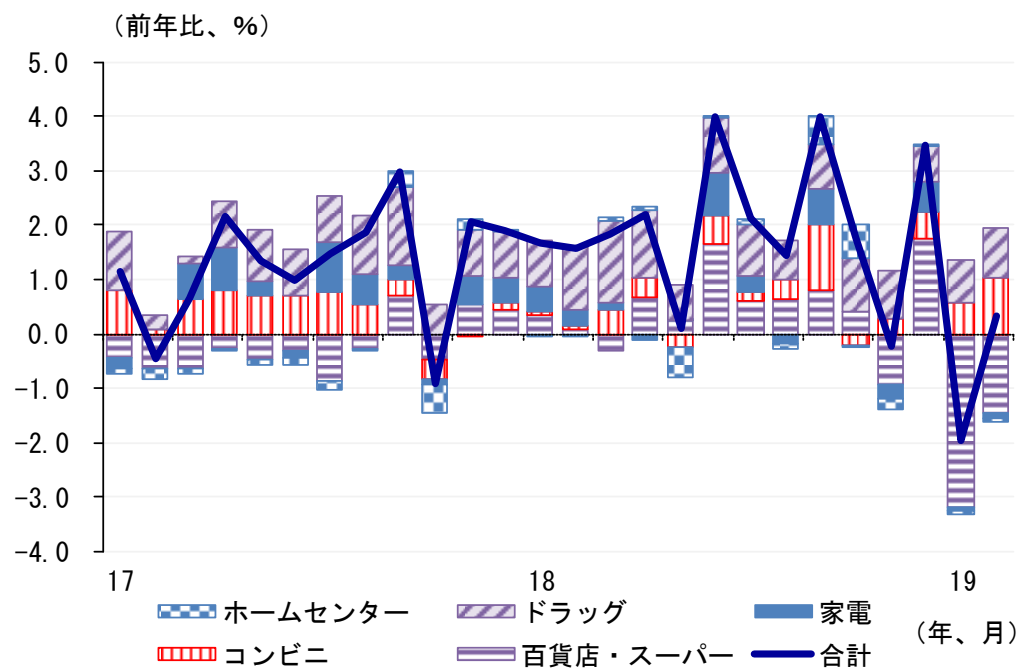


## 8. 個人消費

### ■ 商業動態統計

- 2月の商業動態統計調査6業態の販売額(東海3県)は、前年比+0.3%と増加した。
- 百貨店・スーパーの減少幅が縮小し、コンビニの増加幅が拡大した。

6業態小売販売額

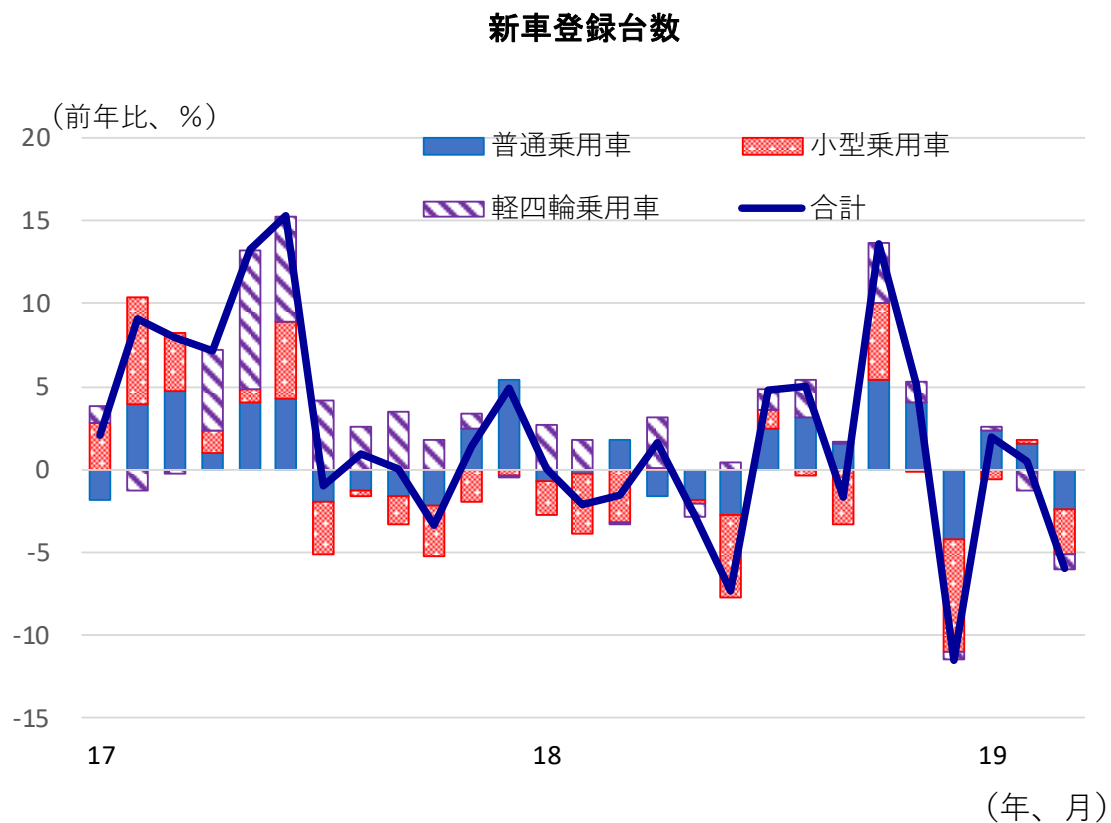


(出所) 経済産業省「商業動態統計調査」

## 8. 個人消費

### ■ 新車登録台数(乗用車、含む軽)

- 3月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、前年比-6.0%と2ヶ月ぶりに減少した。
- 内訳を見ると、小型自動車(同-9.5%)、普通乗用車(同-5.7%)、軽四輪乗用車(同-2.9%)と軒並み減少した。

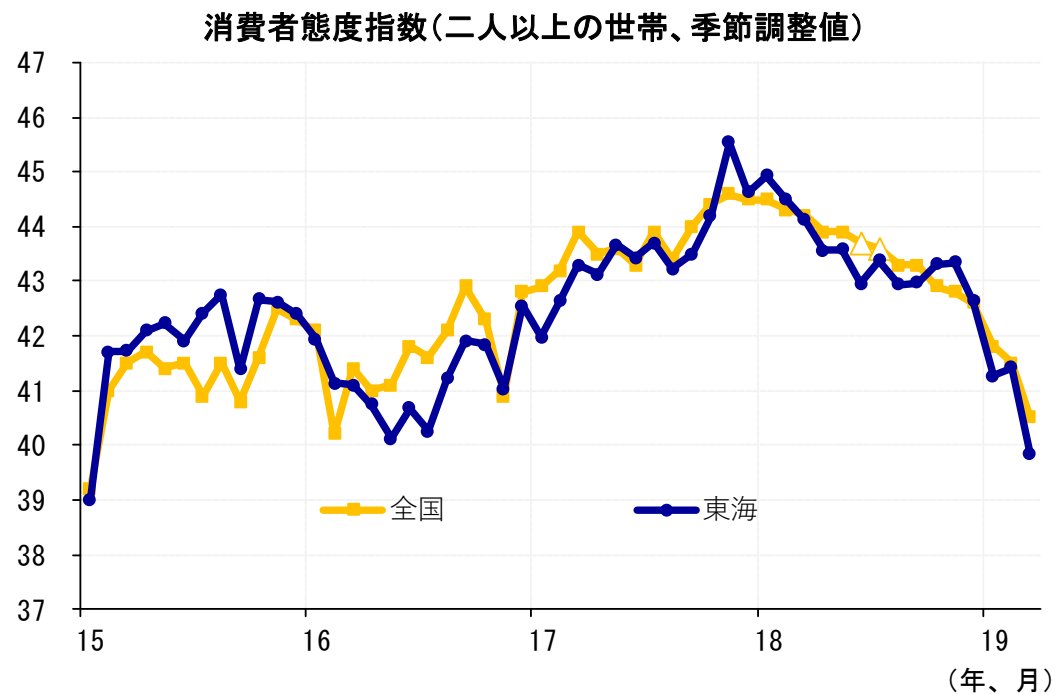


(出所) 全国軽自動車協会連合会、日本自動車販売協会連合会よりMURC作成

## 8. 個人消費

### ■ 消費者マインド

- 消費者マインドを表す**消費者態度指数**(季節調整値:MURC試算値)は、18年後半に横ばいで推移した後、19年に入り大きく低下した。



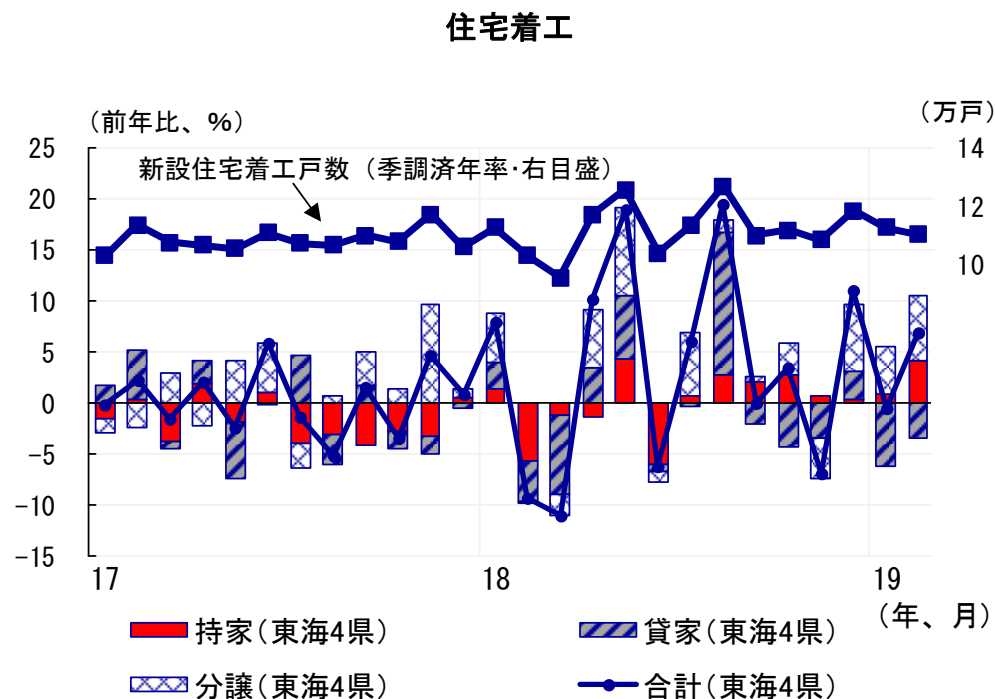
(注) 東海の季節調整値はMURC試算

(出所) 内閣府「消費動向調査」

## 9. 住宅投資～ 横ばい圏で推移している（先行き:横ばい）

### ■ 住宅着工

- 2月の東海4県の住宅着工戸数は、季調済年率で(MURC試算)11.0万戸と、2ヶ月連続で減少したが、均して見ると横ばい圏で推移している。
- 原数値では前年比+6.9%の8,511戸と2ヶ月ぶりに増加した。貸家が減少となったが、持家、分譲が増加した。



(注) 東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社による。

(出所) 国土交通省「建築着工統計」



## 10. 公共投資 ～増加している（先行き：横ばい）

### ■ 公共工事請負額

- 東海3県の2018年度の公共工事請負額(年度累計)は前年比+8.8%と、5年ぶりに増加した。

東海の公共工事請負額(年度累計額の前年比)



(注) 東海＝愛知、岐阜、三重の3県。

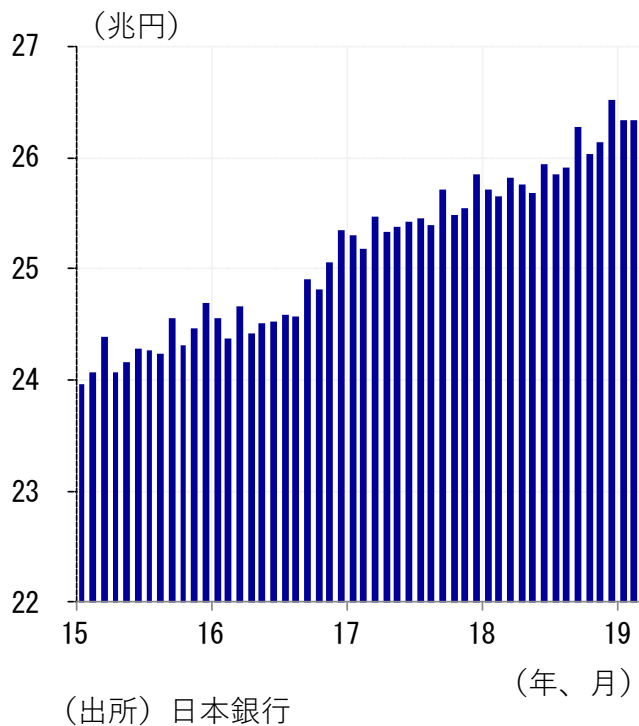
(出所) 保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

## 11. 貸出 ～増加している

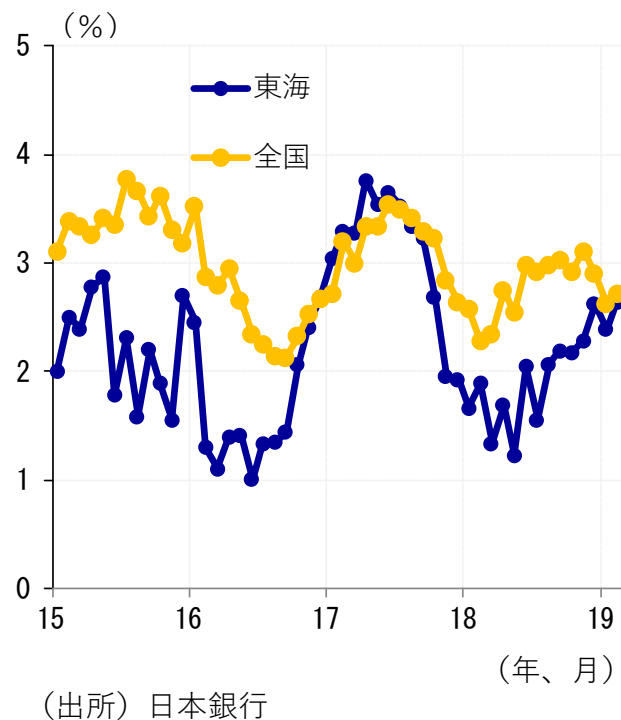
### ■ 貸出残高

- 2月の東海3県貸出残高(国内銀行ベース)は、資金需要が持ち直している中、前年比+2.6%と72ヶ月連続で増加した。

東海の貸出残高(国内銀行)



貸出残高(国内銀行)前年比

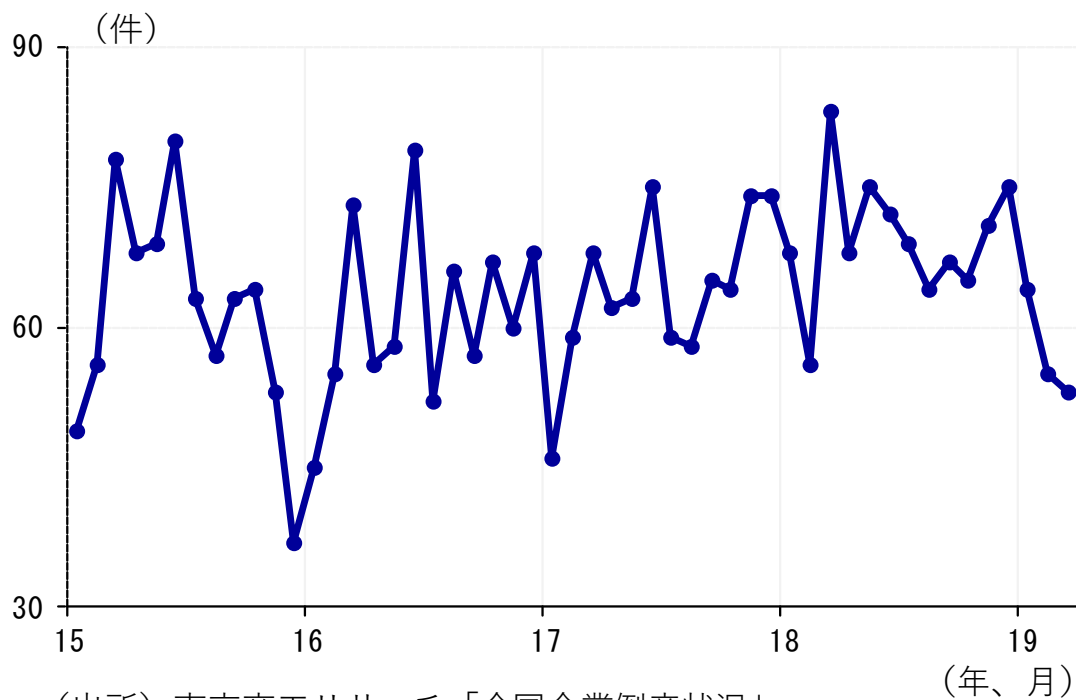


## 12. 倒産 ～件数は前年比で減少

### ■ 倒産件数

- 3月の東海3県の倒産件数は前年比 $-36.1\%$ の53件と、3ヶ月連続で前年を下回った。負債総額も同 $-33.4\%$ の60億円と2ヶ月ぶりに前年を下回った。
- 2018年度の倒産件数は798件(同 $-0.4\%$ )、負債総額は1172億円(同 $-9.9\%$ )となった。

倒産件数



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください